

日銀神戸
支店長の
視点

竜田博之氏



今年も残りわずかとなりました。スポーツ界では、当県を本拠地とするチームが、野球とサッカー双方で優勝するなど、大いに盛り上がる1年でした。

兵庫県経済を振り返ると、一部に弱めの動きがみられたものの、緩やかに回復しました。企業の生産・輸出では、当地の生産面への影響が大きい中国向けで弱さがみられましたが、完成車メーカーの生産回復などもあり、幅広い圏内の動きとなったほか、設備投資も増加しました。また、個人消費も、経済活動の正常化を受けたペントアップ（繰り越し）需要等が牽引する形で緩やかに回復しました。来年を展望すると、わが国経済の景気の回復は続くこと

県内経済、来年の展望

ており、兵庫県も、大阪・関西万博への準備が本格化するなか、基本的に全国と同様の動きになるとみています。もつとも、こうしたシナリオについては、海外経済の動向や、地政学的リスク等を踏まえると、不確実性がきわめて高いことにも留意が必要です。また、国内では、輸入物価上昇の消費者物価への転嫁が進むなか、賃金の上昇が追い付かず、個人消費を抑制することがないか、といった点は懸念材料です。

わが国経済が持続的な成長経路に復帰するためには、持続的・安定的な賃金の上昇が不可欠となります。県内においても、来年の春季労使交渉の帰趨や、賃金等の上昇を念頭に置いた販売価格の設定スタンスの強化やその広がりを確認したいと思っています。来年の干支である辰は、これまで準備してきたことが形になるといった、縁起の良い年だそうです。皆さまにとって、良い1年となることを祈念しています。